

## 税を考える週間記念事業 暮らしの中の税金展

私たちが支払っている税金は、毎日の暮らしの中でどのように活かされているのでしょうか。

名古屋中法人会の女性部会が主催する小学生を対象にした「税に関する絵はがきコンクール」は、税に対する関心と理解を深めることを目的にしています。

暮らしの中の税金展は、11月11日から17日までの「税を考える週間」の記念事業です。今年も税に関する作品の募集に対して、小学生の習字、中学生・高校生のポスターと作文、専門学校の学生による「れんらくぶくろ」のデザインなど数多くの優秀な作品が集まりました。

### 名古屋中法人会 税に関する絵はがきコンクール優秀作品



法人会会長賞 村山 茉優さん



税務署署長賞 安藤 花峰さん



女性部会部会長賞 石田 瑞貴さん



名古屋中法人会会長賞 作文の部  
渡辺 哲平さん



名古屋中法人会会長賞 絵はがきの部  
村山 茉優さん



表彰式

# 税に関する優秀作品表彰式

日時／11月10日(土) 10:30～12:00 会場／三井住友SMBCパーク栄  
税に関する優秀作品展示／11月5日(月)～11日(日) 三井住友SMBCパーク栄



三井住友SMBCパーク栄



女性部会部会長 眞野 綾子氏



# 経営の成功と人生を豊かにする「志の共有」

## 経営研究会 経営に役立つ講演会

日時／平成30年10月19日(金) 18:30~21:00 会場／東京第一ホテル錦2F

### 法人会は、人材のネットワーク

愛知銀行の調査によると、激変するビジネス環境において、事業承継で悩む経営者は愛知県で65%、全国平均では50%。人材不足はいずれも65%と高い。メーカーの多い愛知県は経営者の渴望感が強い。

「経営に役立つ講演」は、平成31年の名古屋中法人会設立70周年（昭和23年 1948）に寄せて、経営研究会会員吉田学氏の事業承継・M&Aの体験談「事業は人なり」と、前専務理事清水正彌氏による「地域とともに歩む法人会」と題して行われた。



### 幸せに生きる力をつける……吉田 学氏

吉田氏は秋田から早稲田大学第一文学部卒業後、リクルート入社、30歳で独立、求人広告代理店(株)アドステージを設立した。

しかしバブル崩壊で経営危機に陥った。

そのとき手を差し延べたのは法人会役員の山口道夫氏（故人）である。その出逢いを聞くと名古屋中法人会の魅力を改めて実感する。

危機を乗り越え経営はやっと軌道に乗ったが、同時に言い知れぬ孤独と寂しさに襲われ、つばめタクシーの山口道夫社長に再度相談する。

「吉田君、経営者の仲間を沢山作った方がいいぞ。秋田か

ら出て来た君の純朴なところを考えると、名古屋中法人会がいいんじゃないか」。

吉田氏は37歳で法人会に入会する。

以来、20年間に及ぶ青年部会並びに経営研究会の重要なポストで活動し、同時に志を同じくする多くの仲間を得た。

「円滑な事業承継の決め手は、経営理念を共有できることです。それには後継者となるご子息や従業員を名古屋中法人会に入会させて“人間力”を磨くことです。

会場には、僕と同じように還暦を迎える仲間が何人もいます。亡くなられた山口さん、事業活動に巻き込み僕の孤独と寂しさを吹き飛ばしてくれた皆さんは、僕の一生の宝です」。

講演では、仲間の平木聖三氏と「晴れの日に着よう」と一緒に作った華やかな衣装を披露され、自身が体験した8年間に及ぶ事業承継の道程を語り感銘を与えた。



### 志は、日本一の法人会……清水 正彌氏

13年間も専務理事の重責を務めてこられた清水正彌氏。

「中法人会では素晴らしい方々と懇意になることができました。また広報誌づくりに携われたことは、私の人生の宝となりました。

昨年秋に逝去されました林董一先生（愛知学院大学大学院名誉教授）には、学童への冊子の監修と、広報誌『福を招き、金持ちになるための良薬～富裕への良薬（平成19年～25年 全16話）』を寄稿していただきましたことも良い思い出



参加者プレゼント  
吉田 学氏著書  
「40歳で『人生の経営者』になろう。」



講師  
吉田 学氏



講師  
清水 正彌氏



東京第一ホテル錦2F

## 第1部 事業は人なり

講師/人材アドバイザー・小説家 吉田 学氏

人材採用の決め手は「人間力」

事業承継の準備期間は、最低5年間

## 第2部 地域とともに歩む法人会

講師/名古屋中法人会 前専務理事 清水 正彌氏

法人会の13年

になりました。

平成24年に公益社団法人として新たに発足しましたが公益化自体が最終目的ではありません。公益化をどう果たしていくか、地域社会にこれまで以上に目を向け、何が求められているのかを的確に判断し実行に移すことです。法人会の認知度を高めることが重要です。これからが真価を問われる時期になります。今後も事業の継続と常なる見直しを図り、地域社会の目線で積極的な活動を開催して次世代につなぐ幹を育てていただきたいと願っています。

そして清水氏は名古屋中法人会の輝かしい歴史を紐解いた。

県下初の公益社団化は、国税局から愛知県の総務局への監督官庁の移行への手続き、これまでの事業活動の分析と公益事業の推進など、膨大な書類作成は困難を極めたが、後進の県下の単位法人会の手本となった。

平成24年に中区の小学校の学童に寄贈した冊子『21世紀に生まれた子どもたちへ 中区 この町が大好き』は、中区の歴史と名古屋中法人会の租税教育を取り上げ、ふるさと中区の魅力と暮らしの中に生きる税金の役割を、学童・父兄へ分かりやすく紹介することができた。

講演では清水氏が、法人会だより「なか」の発行において、取材先の選定・スケジュール・インタビュアーの調整に苦勞されたことも披露されたが、清水氏のお人柄によって和やかな雰囲気に包まれていた。

## 《第1部 成功のポイント》

### ◎ 1,200社の人材採用から得た成功のポイント5

1. 「誰のために、何のために」の目的を明確にする  
(=企業理念)
2. 自社の強み、弱みをはっきり知る。
3. 「どんな人を、いつまでに」の目標設定をする。
4. 自立型社員を採用する。育成する。
5. 人材採用の決め手は「人間力」。

### ◎ 事業承継成功のポイント5

1. 「誰のために、何のために」の目的を明確にする  
(=企業理念)
2. 社長業の中で、逃げられない最大の仕事と位置付ける
3. 親族内承継・社員への承継・M&A・廃業—  
4つの選択肢の中から、トップ自らが選択。
4. 承継準備、本来は創業時にスタート。早ければ早いほどいい。
5. 承継まで最低5年、承継後3年はかかるものと心得る。  
※承継対象者が社員や親族なら、その育成の8割は終えておくこと。

## 《第2部 地域とともに歩む法人会 次世代につなぐ幹を育てよう》

### 1. 法人会の概要

- 昭和23年 申告納税制度導入、任意団体・名古屋中法人会発足
- 昭和48年 広報誌「なか」創刊、社団化設立総会
- 昭和56年 青年部会設立
- 昭和58年 婦人部会設立
- 昭和61年 経営研究会設立
- 昭和63年 中の会発足
- 平成元年 消費税3%スタート、会員数5,808名
- 平成15年 社団化30周年記念式典
- 平成18年 事務局移転 弘洋ビル～昭和ビル
- 平成24年 公益社団法人設立登記
- 平成26年 東海法連静岡大会「活動研究セミナー発表」
- 平成27年 税に関する「絵はがきコンクール」  
マイナンバー制度導入
- 平成31年 名古屋中法人会 発足70周年



謝辞 加藤 育美氏



司会  
平木 聖三氏



あいさつ  
経営研究会代表幹事  
大野 蔵彦氏

吹奏楽落語「しん で い ほんちゅうしんぐら新出意本忠臣蔵」

橘支部・正木支部合同事業

日時／平成30年12月1日(土) 14:00～16:00

会場／東別院会館3F東別院ホール

出演／落語家 桂 九雀師匠

演奏／吹奏楽団 セントシンディアンサンプル



落語家  
桂 九雀師匠

九雀師匠と有松小学校  
同級生の加藤育美氏

名古屋で生まれたロマンの調べ「大正琴」

新栄支部・千早支部合同事業

日時／平成30年12月5日(水)

18:30～19:30

会場／中日ビル5F中日パレス

講演／(株)ナルダン楽器代表取締役

岩田 茂氏

演奏／大正琴澄音会・feat.

ミュージックベルSonnette



【演奏プログラム】

大正琴の音色と魅力

1. 元禄花見踊り
2. こきりこ節
3. 太陽がいっぱい&ゴットファーザーメドレー
4. 津軽じょんがら節

大正琴&ミュージックベルコラボレーション

5. 星影の小径&黄昏のピギンメドレー
6. もののけ姫
7. クリスマスソングメドレー きよしこの夜、ジングル・ベル



講師  
岩田 茂氏

新栄支部事業委員  
奥村 和俊氏

司会  
岡田 光弘氏



## 大須大道町人祭

### 大須支部 地域協賛事業

日時／平成30年10月13日(土)・14日(日)

11:00~20:00

会場／大須商店街界隈



## 元氣のでる会社訪問

### 御園支部

金シャチ横丁 尾張名古屋 天井 徳川忠兵衛  
～金シャチ横丁 出店の経緯～

日時／平成30年11月20日(火) 16:00~19:00

会場／名古屋城正門 金シャチ横丁義直ゾーン



御園支部長 松原 英人氏



講演 (株)まつりグループ社長  
飯田 昌登氏



金シャチ横丁義直ゾーン



尾張那古野 天井 徳川忠兵衛

## 学区合同防災訓練

### 松原支部

日時／平成30年10月23日(火) 9:30~11:00

会場／花春生花地方卸売市場・名古屋花き卸売市場

協力／松原消防団・中消防署・山形県旅籠町米浜防災会

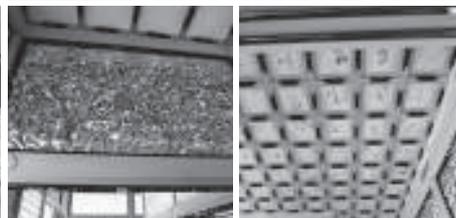


## 名古屋城本丸御殿完成見学会

### 平和支部

日時／平成30年10月16日(火)

会場／名古屋城本丸御殿、ホテルナゴヤキャッスル



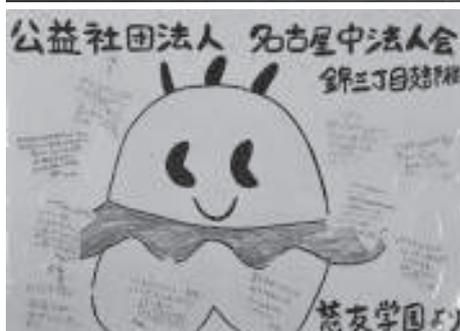
ボランティアガイド、名古屋おもてなし武将隊とともに名古屋城正門前にて

## 福祉施設の児童を科学館・プラネタリウム招待

錦三丁目支部

日時／平成30年11月11日(日) 11:00～

会場／名古屋市科学館



子どもたちからの礼状



感謝状

感謝状受託 平成30年12月20日  
名古屋市役所名古屋市子ども青年局  
鶴岡 一美専務理事、石原 寿生錦三支部事業委員長、海野 稔博局長

## 岐阜かかみがはら航空宇宙博物館・三岸節子美術館見学

錦三丁目支部

日時／平成30年11月15日(木) 9:00～15:40

会場／岐阜かかみがはら航空宇宙博物館・懐石処末木・三岸節子美術館

「豊田佐吉翁の足跡を訪ねて」①

# 日本人の頭脳が白人に負けねえことを証明してやらまいか

社会保険労務士・北見式賃金研究所 所長・北見 昌朗

自動織機を発明した豊田佐吉は、静岡県湖西市の出身である。その系譜のトヨタグループが三河にあるので、三河の印象が強いが、佐吉は30歳ぐらいから亡くなる63歳までほぼ名古屋で暮らした。言ってみれば、佐吉は「名古屋人」である。市内にはその足跡があちこちで残っている。名言とともに紹介しよう。

## その① 創業の地

佐吉は、蒸気で動く力織機<sup>りき</sup>の発明を目指した。だが、それには多額の資金が要った。そこで手っ取り早く商品化できそうだった糸繰返機<sup>かせくりき</sup>を的に絞り、その改良を図った。その商品は当たり売れた。そこで知人と共同で創業した。創業は明治27年頃だ。「豊田代理店 伊藤商店」という屋号だった。場所は朝日町一丁目（現名古屋市中区錦三丁目26番地）で、現興和本社の近辺である。佐吉自身はその頃半田の乙川で力織機の発明に精進していたので、この地で居住した訳ではない。この店は、共同経営者に使い込まれて失敗した。

## その② 後妻浅子と再起を目指した地

佐吉は、たみという女性と結婚して長男喜一郎が生まれた。だが、たみは家を出た。

佐吉にとって幸運だったのは、浅子と明治30年に再婚したことだ。佐吉と浅子は、宝町（現名古屋市中区錦3丁目6番地。テレビ塔のブロックの南側）で豊田商店を創業した。

## その③ 織機製造の始まりの地

浅子は、賢婦人だった。機屋の女将さんとして店を切り盛りした。おかげで佐吉は発明に没頭できるようになった。店は軌道に乗り、織機を製造する工場を明治30年に作った。それが武平町工場である。現住所で言えば、名古屋市東区泉一丁目22番地の1、ザ・センチュリーステイツというマンションの場所である。桜通にはパナソニック、トヨタのビルがあるが、トヨタビルの道を隔てて東側だ。

佐吉の織機は評判になり、大隈重信などの有力者が視察に来て、一躍時の人になった。

屋号も「豊田商會」に変更した。その頃、娘愛子も生まれた。愛子は美女で、利三郎と結婚した。その利三郎は理財に長けて、佐吉を助けて豊田財閥の総帥になる。

## その④ 盟友と天下国家を論じた料亭「花月」

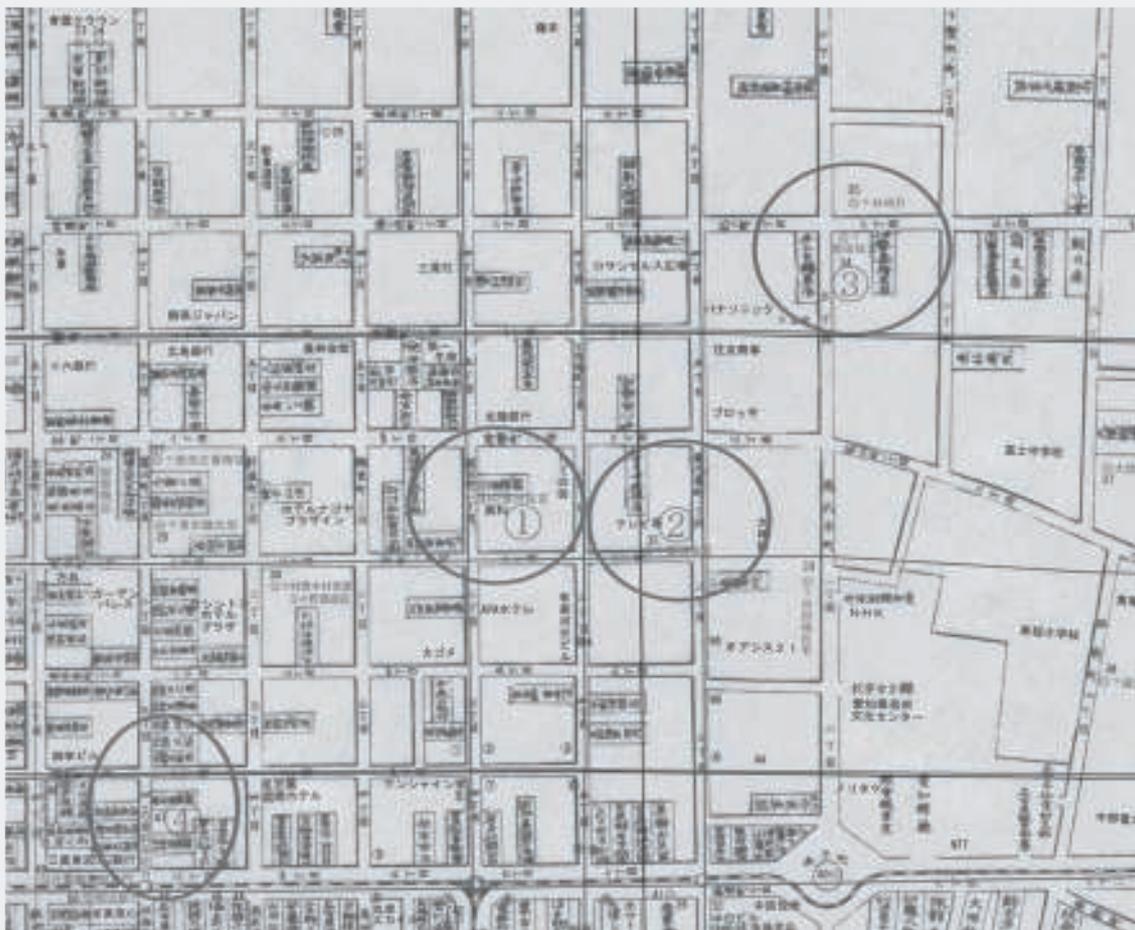
佐吉はお酒が好きで、底なしだった。数人の盟友と頻繁に通っていたのが料亭「花月」だ。花月は富沢町四丁目、現名古屋市中区錦三丁目21番地（UFJ名古屋営業部のブロックの東側）である。広小路七間町の交差点を北へほんの数歩、その西側だった。

日露戦争で勝利した時も「世の中は、勝った勝ったと騒いでいるが、何が勝ったじゃ！ 戦艦三笠は、英国のヴィッカーズ社が造ったものじゃ。海戦で使用された測距儀も英国のバー・アンド・ストラウド社製じゃった。だから英国の技術で勝ったようなものじゃ。どこにも日本の技術はねえ。それを恥ずかしいと思うべきじゃ。それなのに、自分たちの力で勝ったように錯覚して、勝った勝ったとええ

気になって騒いでいる。日本は一等国になったとかいうが、何を勘違いしているのか！ 日本人の頭脳が白人に負けねえことを証明してやらまいか」

と、ぶっていたと伝わっている。

花月の亭主は杉野直一（なおいち）といった。なお、この杉野直一は、河村たかし名古屋市長の祖父（母の父）にあたる。



これは、明治42年の古地図（北見昌朗制作）に印を付けたものです。

#### 北見 昌朗氏

社会保険労務士で北見式賃金研究所の所長。名古屋城天守閣を木造復元し、旧町名を復活する会を主宰。愛知千年企業（中日新聞）など著書多数。豊田佐吉翁を尊敬して、その生涯を追う。この記事は、昔の話ですから、筆者の空想も混じっていることをご承知下さい。また、現トヨタ自動車グループとは関係ありません。